StComm会議報告（案）

富士原

場所：杭州Huagang Hangzhou Hotel
日時：2015年9月27-28日
参加者：1日目：John Chen (中国：議長), Jiabiao Li (中国), Jerome Dyment (フランス), Marcia Maia (フランス), Nadine LeBris (フランス), Mathilde Cannat (フランス), Anne Briais (フランス), Kim Juniper (カナダ), Sung-Hyun Park (韓国), Seung-Sep Kim (韓国), Richard Hobbs (英国), Nobukazu Seama (日本), Toshiya Fujiwara (日本), Jian Lin (アメリカ), Henry Dick (アメリカ), Colin Devey (ドイツ), Fernando Barriga (ポルトガル), Zengxi Ge (中国：コーディネータ)
2日目：John Chen (中国：議長), Jerome Dyment (フランス), Marcia Maia (フランス), Nadine LeBris (フランス), Kim Juniper (カナダ), Sung-Hyun Park (韓国), Seung-Sep Kim (韓国), Richard Hobbs (英国), Toshiya Fujiwara (日本), Zengxi Ge (中国：コーディネータ)

StComm会議はTheoretical Instituteと合わせて行われた。アメリカ、ドイツ、ポルトガルも参加し、オブザーバーも多く盛会であった。今回の会議での大きな議題は、次期オフィス国の選定、今後の活動について、であった。

1日目に、次期オフィスに立候補したフランスによるオフィス運営プロポーザルのプレゼンテーションが行われた後、審議が行われた。共同議長の役割を明確にすること、コーディネータの人選を熟慮することとの元オフィス国の助言を添えて、全会一致でフランスが次期オフィス国として承認された。

今後の活動については、若手研究者の育成、次世代間交流の促進をどうやって図るかが議論された。具体的計画は作られなかったが、今回のTheoretical Instituteの盛会をうけて、ワークショップ、サマースクールなどの企画を数多く検討することが合意された。

各国の状況の報告がされたが、海嶺研究における財政状況の逼迫は変わらず、各国のメンバーシップが変更されることはなかった。数年来、主要国のアメリカ、ドイツの離脱が懸念されていたが、新たな人材・体制を模索しながら、インターリッジへの貢献を続ける意向が言明された。

海洋底が海嶺で作られているという観点から、InterRidgeという名前で、国際的な枠組みで研究を推進する組織として、off-axisを含めた海洋底の研究まで広げることを容認。但し、沈み込み帯には今のところ抵抗感が強い。

2日目は、定例の報告（事務局・各国・ワーキンググループの今年度の活動）が行われた。詳細はインターリッジニュースに掲載する予定である。

次回のStCommは、2016年8月29-30日にパリで開催予定である。